

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194200044		
法人名	有限会社M&Y		
事業所名	グループホーム羅臼しおさい 一階		
所在地	北海道目梨郡羅臼町湯ノ沢町14-5		
自己評価作成日	平成28年10月12日	評価結果市町村受理日	平成28年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=0194200044-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成28年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは世界自然遺産という大自然の中に位置しており、環境的に大変恵まれた所です。熊や鹿、キタキツネやオオワシ等沢山の野生動物を真近で見ることが出来ます。又羅臼は漁業が盛んな町という事もあり、漁業を営んでいる御家族や友人、知人からの新鮮な魚介類の差し入れを頂き皆さんで美味しく頂いております。又多少町からは離れているものの車で走ればほんの数分の所に今まで利用者が利用していた昔から馴染みの店があり、買い物に行く事で昔からの社会的な交流が維持出来ています。その他にも町内会や婦人部の方々が慰問に来てくれ、歌や踊りを披露してくれたり、昔からの知人も気軽に遊びに来てくれ昔話や互いの近況報告等の話に花を咲かせています。それから当ホームで常に心掛けている事は利用者個々の出来る事、やりたい事を大切にしています。食器拭きや洗濯たみ、掃除等の作業を一緒に行い日々の生活の中で役割を持ってもらう。編み物や縫物、書き物等が得意な方には、その事が楽しみの繋がるような声掛けをする事で、利用者が生き生きと生活をしていけるようお手伝いをしています。又、利用者と職員の関係が利用者、職員としてではなく人対人として共に笑い、共に泣き、時には共に怒りと一緒に感じながら過ごしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

世界遺産知床という大自然の中で地域に密着した事業所を目指し、昔からの馴染みのお店への買い物等で社会的な交流や町内会や婦人部の方々が歌や踊りを披露等での慰問、ご家族や友人から海産物や野菜の差し入れ、地域の友人や知人がホームに気軽に来訪してお互いの近況報告や昔話で以前の関係の継続が出来るよう取り組んでいます。毎月の「しおさい通信」では、手書きのお便り文を添え、写真入りで行事や日常の生活の様子、認知症の豆知識を載せ家族へ認知症の理解が進むように情報提供にも取り組んでいます。本人の持てる今の力を最大限に活かせるよう食器拭きや洗濯たみ、掃除等の作業を一緒に行い日々の生活の中で役割を持ってもらい、編み物や縫物、書き物等が得意な方には、その事が楽しみに繋がるような声掛けをして本人が活躍できる場面作りに取り組んでおり、利用者と共に家族となって喜怒哀楽を出せるホーム作りに取り組んでいる事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内理念を基に事業所独自の理念を職員全員で作成し、その理念を共有し、より良いサービスの提供へ繋がるよう、様努めている。	法人理念を踏まえて事業所独自の理念を職員全員で作成しており、職員会議や日々の申し送りの際に振り返る機会を作っている。また、居間の見易い場所に理念を掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様の希望があれば買い物等と一緒に行き外出する機会を設け、町で行われる行事等にも参加出来る様努め、地域の方とのコミュニケーションの場を作り、利用者が地域と繋がりがながら暮して頂ける様支援している。行事や避難訓練等も地域の方に参加して頂けるよう努めている。	事業所の行事や避難訓練に地域住民も参加しており、日常の買い物や散歩等でも地域との交流を図って地域とのつながりを大切に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元高校生の職業体験の受け入れの協力を引き続き行っている。又、ホーム見学も自由に受け入れられるようにしている。利用者家族には引き続き毎月のおさい通信に「認知症の豆知識」を載せ、認知症の理解を深めて頂ける様取り組みをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの取り組みや近況報告をするとともに、運推メンバーからの質問や意見、要望をいただくことにより、今後の運営に活かせる様努めている。又、行事や避難訓練に実際に参加していただくことにより、生でホームの様子や活動を見て頂き、ホームでの取り組みに理解を深めて頂ける様にしている。	運営推進会議は年6回実施し、利用状況や近況を報告している。また、行事や避難訓練等へ参加してもらいながら取り組み状況等について意見交換し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加協力やクリスマス会、昼食会等ホームでの行事に参加して頂いている。又避難訓練にも参加して頂き、訓練終了後の職員の反省会にも同席して頂き、市町村担当者からも意見を頂きながら、実情を理解して頂ける様努めている。又、ホーム内での身寄りのない利用者についてはサービスの内容も含め本人の状況をこまめに報告し、常に情報が共有できるよう努めている。	町担当者や地域包括支援センターの職員とは運営推進会議や日常業務、事業所の行事への参加を通じて交流を図り、事業所の実情を理解して貰えるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置している。また、毎月行っている職員会議や勉強会の際に身体拘束をしないケアの取り組みとして全職員が禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できるよう繰り返し行っている。又、玄関の施錠については夜間以外は解放している。	身体拘束廃止委員会を設置し、外部研修や法人内研修を通じて、身体拘束をしないケアの理解や認識の共有を図っている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議の際に身体拘束をしないケアの取り組みとして、全職員が身体拘束にあたる行為や言動等について話し合いの場を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がいないこともあり、個々の職員が制度の把握を出来ているとは言えない。今後成年後見人制度が必要と思われる方について行政の方と相談し、その方が安心してGHでの生活が継続出来る様協力を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書にて十分に説明し、納得を得て頂いたうえで契約をしている。又、利用者や家族の不安、疑問点も含めいつでも相談できる様随時時間を設け説明をしている。又、改正時にも同様詳しく説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置し、自由に意見を言ってもらえるようにしている。又、家族会や運推で不満や意見を言ってもらえる場を設けたり、家族が来所された際にも、いつでも気軽に声を掛けて頂ける様にしている。利用者については、毎日の生活の中で出来るだけ会話をする時間を作る事で意見や要望を聞ける様にしている。	家族の訪問時に出来る限り話し合いの時間を設け、利用者の近況報告と共に希望や要望等の意見を貰い、それらの意見は速やかに改善できるよう取り組んでいる。また、玄関に意見箱の設置や外部者へ意見や苦情等を言い表せるように関係機関の申し出先を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を利用し、管理者は常に職員の意見や提案を聞ける機会を作っている。職員会議に関わらず随時面談をし、職員の声を聞ける環境を作り、日々のサービスに反映させている。	管理者は、毎月の職員会議や日常業務を通じて、職員からの意見や要望、提案を聞くように取り組んでおり、必要に応じて随時、個人面談の機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の勤務状況や、努力等を把握し、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行われる職員会議の際には全職員もちまわりで現場に即した内容の勉強会を取り入れ、又、その他でも毎月一回ホーム全体でのキャリアパス研修を行い、介護技術などの向上に努め、それ以外でも随時、個別に技術指導をフロア主任が行っている。事業所以外での研修についても出来る限り参加できるよう心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	当ホームは遠隔地にある事もあり、交流が縁遠くなってしまいがちだが、出来る限り地元で開催される研修に参加するようにし、自分のホームの中の事だけでなく、他事業所の取り組みや意見交換をする事で職員個々のサービスの質の向上していけるよう心掛けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人との面談を必ず行い、病歴や身体状況の把握を行うとともに利用者本人の言葉から趣味や日常生活の状況や本人の思いを理解できるように努めている。スタッフ間での情報を共有し、出来る限り本人が不安に思う事がないよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始するにあたり御家族との面談を行い、御家族が不安に思っている事や要望等いつでも相談できる事を伝え、スタッフ個々が対応できる様情報を共有し、家族が制限なく自由にホームに出入り出来る事や、利用者の外泊や外出も自由に出来る事を伝え出来る限り不安なく安心して利用開始出来る様努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、ご家族様と本人の状況を理解し、必要と思われるサービスの利用の相談を行っている。例えば訪問診療や有償サービスの利用や福祉用具等今後必要と思われる様々な事についても相談、検討し対応するよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、軽作業(掃除、食器拭き、洗濯たたみ等)と一緒に、食事と同じものを一緒に食べ、行事等と一緒に楽しみ、困っている事(悩み)等の話す時間を作り、喜怒哀楽を共感し、共に支え合いながら信頼関係を築いていけるよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の中での出来事等を毎月発行のしおさい通信や御家族の来所時に話して伝えている。体調の変化等は電話にて報告し、本人が何かしらの要望があるとき等も御家族に連絡し、常に現在の利用者の状況を御家族と共有し、相談しながら支援するよう努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで築いてきた人間関係や社会関係を断ち切らない様一人一人の生活習慣を尊重している。馴染みの美容室や理容室の利用継続や昔からの知人や友人との手紙のやり取りや、ホームに気軽に来所して頂いたり、交流が継続的に出来る様努めている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの商店や理美容院を継続して利用出来るよう取り組んでいる。また、昔からの知人や友人との手紙のやり取りや、ホームに気軽に来所して頂いたり、交流が続けられるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係性を職員が情報を共有する。又、日常の軽作業や行事等と一緒にすることで利用者同士の関係が良好になるよう努め、一人一人が孤立する事のない様、又トラブルになりそうな時は職員が間に入る等の対応をしている。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、これまでの関係を断ち切る事のない様、本人・家族から相談があれば、対応出来る様にし、気軽に遊びに来てもらえるよう心掛けている。			

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から利用者一人ひとりの思いや希望等さりげない聞き取りをし、又表情や行動からも思いをくみとれるよう努めている。困難な場合は家族にも相談し、ケースカンファレンスを行い、本人本位に出来る様検討している。	センター方式を活用し、家族からの情報や日常の会話や表情などから思いや意向をアセスメントしている。また、カンファレンスで情報を共有し、本人本位の支援になるよう検討している。	
----	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族が来所した際に聞き取りや、本人との何気ない会話の中から情報を聞き取り、センター方式を活用し、これまでの生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の一日の過ごし方や身体状況を記録に残し、現在出来ることやしている事の情報共有しカンファレンスで話し合い、把握したうえで現状維持に努め、利用者個々の意欲の向上を目標としている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に必要な情報をセンター方式を活用し全職員で情報を共有している。又カンファレンスを通じ全職員の意見を参考に本人に現在必要な支援を見極め介護計画を作成している。介護計画作成時には本人の言葉を大切に、必ず家族様との相談も行い家族様の思い、要望を取り入れながら作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、毎月の職員会議でのカンファレンスで検討し、現状に即した介護計画を作成している。また、本人、家族と話し合い、それぞれの意見や思いを反映させるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やセンター方式の中で本人の言葉を大切にす為話した言葉や行動を出来る限り記録に残し、それを元にカンファレンスを行い職員間で情報を共有している。ホームでの日々の生活の中で本人の思いに気付ける様努めている。又、介護計画見直しの際にはセンター方式を必ず行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助が困難な利用者様や御家族様については、診療所に相談し、訪問診療を利用したり、有償サービスの利用等の対応をしている。又、その時々で御家族様や御本人と相談し、出来る限り柔軟な対応が出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な利用者には歯科医の往診や訪問診療、訪問看護等を利用している。又、地元の床屋さんやパン屋さんに来ていただき自分で選び買い物をする楽しみを持っていただいたり地域の方にも慰問に来て頂き楽しみを持っていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診している。必要な方には町外の専門医への受診もしている。基本的には家族同行の受診となっているが、身体状況や本人、家族の希望により地元の診療所より訪問診療による受診も受けてもらっている。受診時には情報提供書を提出し、場合によってはスタッフも同行しスムーズな受診が出来るよう努めている。	家族と相談しながら家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。また、家族が同行した受診時は医師に情報提供書を提出し、適切な医療を受けられるように取り組んでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者に変化があった時には、看護師に連絡をし、的確な指示を受けることが出来ている。又、月一回の訪問診療をしていただくことで通院困難な利用者も、定期的な受診ができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来る限り早期の受診により入院することのないよう努めているが、入院になった場合には、データベースや、報告書の提出をしている。又、利用者の状況変化時には病院に報告し情報共有出来る様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応及び看取りに関する指針を持ち、重度化、終末期については利用時に事業所の出来る事を説明し、本人や家族の希望や意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、早い段階から本人の状況や事業所が支援できる限界を家族に丁寧に説明しながら方針を職員間で共有している。	重度化、終末期については利用時に事業所のできることを説明している。また、本人や家族の希望や意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、早い段階から本人の状態や事業所ができる事を家族に丁寧に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全職員が救命救急講習を受講している。急変時の対応マニュアルを用意し、いつでも目を通せる様にしている。又、毎月の勉強会でも応急手当の仕方等も取り上げる事により、実践力を身に付けられるよう心掛けている。又、施設内にAEDの設置もしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は日中、夜間を想定し年2回行っている。訓練時には家族様にも参加頂いている。地域の方の協力体制は万全とは言えないが少しずつでも協力して頂けるよう呼びかけている。地震や自然災害に備えて町の防災訓練に参加し防災意識を高めている。	地域住民や消防署の協力を得て、年2回昼夜を想定した実技を伴う避難訓練を実施し、終了後には会議で消防署や町の担当者らと意見交換し、改善点を次の訓練に活かせるよう取り組んでいる。また、自然災害についても防災無線の設置や町の防災訓練にも参加している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時やトイレ介助時等には本人のプライバシーに最大限配慮し、利用者の個室におじゃまするときにも必ず声掛けをするよう職員全員で心掛け対応している。	個人情報の取り扱いについては十分注意して取り組んでおり、プライバシー確保の徹底を図り、接遇研修を通じて本人の思いに沿ったケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の情報をスタッフ全員で共有し、利用者との会話や何気ない一言や表情等から本人の意思を引き出したり感じ取れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	毎日利用者様との談話する時間を持ち、その中で食べたいものや、したい事を聞きながら利用者の希望に添える様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の用意が困難な利用者様には、本人が選択できるように工夫している。基本的に利用者や相談しながら、その人らしさを考慮し支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様皆さん毎日の食事を楽しみにされているので、利用者様の食べたいものを聞いたり、新鮮な食材を使い利用者に味見等をして貰い、可能な時には職員と一緒に食事の用意をし、楽しく食事をしていただけるよう支援している。また、食後の片付けは利用者個々の役割として楽しみの一つとなっている。	職員と一緒にお膳拭きや食器洗い・食器拭き等、役割表作成等に取り組んでおり、利用者家族や友人、知人からの差し入れ等の食材を利用して工夫しながら利用者の好みに合った食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューを記入し、栄養のバランスを考慮した食事を提供出来る様掛けている。一日の食事摂取量や水分量を毎日記録に残し、職員間で情報を共有している。又、自力での摂取が難しい利用者には、ストローやコップに工夫をしたり、場合によっては介助にて摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る利用者には毎食後歯磨きや、うがいの声掛けをし、介助が必要な利用者には歯ブラシやモアブラシ等で口の中や舌に汚れが残っていないか確認をしている。就寝前には毎日必ず義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄のリズムに合わせ、時間を見て誘導の声掛けを行っている。又、排泄の失敗があった場合にも本人のプライバシーに配慮し、さりげなく声掛けしている。	一人ひとりの力や習慣を活かして、排泄チェック表で排泄パターンを把握し、プライバシーへの配慮に十分注意しながらトイレで排泄できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為毎朝起床時に牛乳を飲んで頂き、毎食後にヨーグルトを摂って頂く事で排便がスムーズに出来るよう支援している。又それでも便秘がちな方については、医師に相談し排便を促す薬の処方等をして頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴の曜日に特に決まりはなく、基本的には入浴の時間帯は決まってはいるが、希望があれば時間帯をずらす等し、気持ちよく入浴出来る様支援している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回～3回の入浴を目安に利用者が気持ちよく入れることを心掛けて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々のその日の体調に合わせて休んで頂いたり、足のむくみのひどい時には足をあげて休んで頂いたりしている。夜間については、1人1人の生活習慣に応じ好きな時間に休んで頂いたり、睡眠を促したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方内容をファイルしており、いつでも確認出来るようにし、薬の変更があった場合には個人記録に記入、申し送り等で全職員が把握出来る様にしている。又、薬をセットする際には間違えのないよう複数名で確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の出来る事、食器拭きや洗濯たみ、モップかけ等、職員と一緒に作業前後には必ず利用者をお願いします。ありがとうございます。とお礼をすることで、やりがいを感じる事が出来るよう支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬場は雪が多く風も強い為外出の機会が少なくなってしまうが、その時期以外は御家族にも協力して頂き外出する機会を持っていただけるよう努めている。又、その日の利用者の希望で買い物等可能な限り出掛けられるようしている。	町内での買い物、友人宅への訪問等、一人ひとりのその日の希望にそって、ご家族の協力を得ながら戸外に出かけられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方も、事業所が預り管理している方も欲しいものがあれば購入して頂いている。又、月1回程度地元のパン屋さんに来所して頂き、自分で選び、購入して頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をする時には誰にも気兼ねなく出来るよう自室でゆっくり会話して頂いている。自分でかけられない方でも電話できるようスタッフが番号を代わりに押ししたりお手伝いさせて頂いている。手紙についても本人宛のものは本人に渡し、出したい手紙は代わりにポストに入れる等利用者に合わせて対応をし、大切な人との関係を断ち切る事のないよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のホールでは生活感が感じられるような音や匂い(調理の音や匂い、何気ないテレビの音等)の中で過ごして頂いている。又、季節感を採り入れた飾り付け(七夕、正月、クリスマス、お月見等)をし、目でも季節を感じることが出来るようしている。スタッフが作る雑音には十分に気を付け、ゆったりと居心地良く過ごして頂けるよう心掛けている。	共用スペースは広くゆったりとしており、壁には季節に合わせた飾り付けや行事や日常生活の様子の写真が掲示され、生活感や季節感を採り入れ居心地よく過ごせるような空間になっている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや食卓テーブルで、気の合った利用者同士と一緒にテレビを見たり、談話をしたりと思思いに過ごされているが、共用空間には独りになれるスペースがない。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の個室には自宅で使っていた馴染みのものを置いて頂き、家族が持ってきた写真や飾り物等を飾っている。また、利用者の趣味(編み物や書き物)は本人が疲れない範囲で自由にやっている。	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具等を持ち込み、家族の写真やつるし雑等の手芸作品が飾られ、本人が居心地よく過ごせるような空間になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食卓テーブルに利用者の名前シールを張り出し自分の場所が分かるようにしている。トイレにも大きく張り出す事で分かりやすくしている。又、トイレ内の流すボタンも分かりやすく説明を書く事で自分で認識出来る様にしている。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194200044		
法人名	有限会社M&Y		
事業所名	グループホーム羅臼しおさい 二階		
所在地	北海道日輪郡羅臼町湯ノ沢町14-5		
自己評価作成日	平成28年10月12日	評価結果市町村受理日	平成28年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=0194200044-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは世界自然遺産という大自然の中に位置しており、環境的に大変恵まれた所です。熊や鹿、キタキツネやオオワシ等沢山の野生動物を真近で見ることが出来ます。又羅臼町は漁業が盛んな町という事もあり、漁業を営んでいる御家族や友人、知人からの新鮮な魚介類の差し入れを頂き皆さんで美味しく頂いております。又多少町からは離れているものの車で走ればほんの数分の所に今まで利用者様が利用していた昔から顔馴染みの店があり、買い物に行く事で昔からの社会的な交流が維持出来ています。その他にも町内会や婦人部の方々が慰問に来てくれ、歌や踊りを披露してくれたり、昔からの知人も気軽に遊びに来てくれ昔話や互いの近況報告等の話に花を咲かせています。それから当ホームで常に心掛けている事は利用者個々の出来る事、やりたい事を大切にしています。食器拭きや洗濯たみ、掃除等の作業を一緒に日々の中で役割を持ってもらう。編み物や縫物、書き物等が得意な方には、その事が楽しみに繋がるような声かけをする事で、利用者が生き生きと生活をしていけるようお手伝いをしています。又、利用者と職員の関係が利用者、職員としてではなく人対人として 共に笑い、共に泣き、時には共に怒り と一緒に感じながら過ごしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内理念を基に事業所独自の理念を職員全員で作成し、その理念を共有した支援が出来る様努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様の希望があれば買い物等に一緒に行き外出する機会を設け、町で行われる行事等にも参加出来る様努め、地域の方とのコミュニケーションの場を作り、利用者が地域と繋がりがりながら暮らし続けるよう支援している。行事や避難訓練等も地域の方に参加して頂けるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元高校生の職業体験の受入れの協力を引き続き行っている。又、ホーム見学も自由に受け入れられるようにしている。利用者家族には引き続き毎月のしおさい通信に「認知症の豆知識」を載せ、認知症の理解を深めて頂けるよう取り組みをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの取り組みや近況報告をするともに、運推メンバーからの質問や意見、要望を頂く事により、今後の運営に活かせる様努めている。又、行事や避難訓練に実際に参加して頂く事により、生でホームの様子や活動を見て頂き、ホームでの取り組みに理解を深めて頂けるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加協力やクリスマス会、昼食会等ホームでの行事に参加して頂いている。又避難訓練にも参加して頂き、訓練終了後の職員の反省会にも同席して頂き、市町村担当者からも意見を頂きながら、実情を理解して頂ける様努めている。又、ホーム内での身寄りのない利用者についてはサービスの内容も含め本人の状況をこまめに報告し、常に情報が共有できるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置している。また、毎月行っている職員会議や勉強会の際に身体拘束をしないケアの取り組みとして全職員が禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できるよう繰り返し行っている。又、玄関の施錠については夜間以外は解放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議の際に身体拘束をしないケアの取り組みとして、全職員が身体拘束にあたる行為や言動等について話し合いの場を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がいないこともあり、個々の職員が制度の把握をできているとは言えない。今後成年後見人制度が必要と思われる方については、行政の方と相談出来る様進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書にて十分に説明し、納得を得て頂いたうえで契約をしている。又、利用者や家族の不安、疑問点も含めいつでも相談できる様随時時間を設け説明をしている。又、改正時にも同様詳しく説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置し、自由に意見を言って貰えるようにしている。又、家族会や運推で不満や意見を言って貰える場を設けたり、家族が来所された際にも、いつでも気軽に声をかけて頂ける様にしている。利用者については、毎日の生活の中で出来るだけ会話をする時間を作る事で意見や要望を聞ける様にしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を利用し、管理者は常に職員の意見や提案を聞ける機会を作っている。職員会議に関わらず随時面談をし、職員の声を聞ける環境を作り、日々のサービスに反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の勤務状況や、努力等を把握し、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行われる職員会議の際には全職員持ち回りで現場に即した内容の勉強会を取り入れ、又、その他でも毎月1回ホーム全体でのキャリアパス研修を行い、介護技術等の向上に努め、それ以外でも随時、個別に技術指導をフロア主任が行っている。事業所以外での研修についても出来る様心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	当ホームは遠隔地にある事もあり、交流が縁遠くなってしまうが、出来る限り地元で開催される研修に参加するようにし、自分のホームの中の事だけではなく、他事業所の取り組みや意見交換をすることで職員個々のサービスの質の向上していけるよう心掛けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に御本人との面談を必ず行っている。病歴や身体状況の把握を行うとともに利用者本人の言葉から趣味や日常生活の状況、本人の思いを理解できるよう努めている。スタッフ間での情報を共有し、出来る限り本人が不安に思うことがないよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始するにあたり御家族との面談を行い、御家族が不安に思っている事や要望等いつでも相談出来ることを伝え、スタッフ個々が対応出来るよう情報を共有し、家族が制限なく自由にホームに出入りできる事や、利用者の外泊や外出も自由に出来る事等を伝え出来る限り不安なく安心して利用開始出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、御家族様と本人の状況を理解し、必要と思われるサービスの利用の相談を行っている。例えば訪問診療や有償サービスの利用や福祉用具等今後必要と思われる様々な事についても相談、検討し対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は毎食一緒に食べ、行事等では一緒に楽しみ、不安や悩みがある時にはゆっくりと話す時間を作り、喜怒哀楽を共感し、互いに支え合いながら信頼関係が築ける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の中での出来事等を毎月発行のしおさい通信や御家族の来所時に話して伝えている。又、体調の変化等は電話にて報告し、常に現在の利用者の状況を御家族と共有し、相談しながら支援するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで築いてきた人間関係や社会関係を断ち切らない様一人一人の生活習慣を尊重し、昔からの知人や友人にもホームに気軽に来所して頂き、継続的な交流が出来る様努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、一人一人が孤立する事のない様、食事時以外の時間もホールに集まりカラオケやテレビ、歌と一緒に聞いたり、お茶を一緒に飲みながら皆で談話をする機会を作っている。又トラブルになりそうな時は職員が間に入る等の対応をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、これまでの関係を断ち切る事のない様、本人・家族から相談があれば、対応出来る様心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望を聞き、希望する暮らし方が出来る様努めている。又、普段の会話から本人の思いなどを聞き入れたり、表情や行動からも思いをくみ取れる様努め、利用者一人ひとりの思いを把握する。困難な場合はケースカンファレンスで出来る限り本人本位に出来る様検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様が来所した際に聞き取りや本人との何気ない会話の中から情報を聞き取り、センター方式を活用し、これまでの生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人のその日の様子を記録に残し、身体面・精神面での変化等がある時にはスタッフ間で引継ぎ、共有し、必要時には御家族にも連絡をし、現状の把握と共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に必要な情報をセンター方式を活用し、全職員で情報を共有出来る様にし、カンファレンスを通じ全職員の意見も参考に本人に現在必要な支援を見極め介護計画を作成している。介護計画作成時には本人の言葉を大切に、必ず御家族との相談も行い御家族の思い、要望を取り入れながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子を記録に残し、全職員が情報を共有出来る様努め、変化のあった時や利用者に必要な事柄が起きた時には御家族も含め話し合いの時間を持ち早めに対応し計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助が困難な利用者様やご家族様については、診療所に相談し、訪問診療を利用したり、有償サービスの利用等の対応をしている。又、その時々で御家族様や御本人と相談し、出来る限り柔軟な対応が出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な利用者には歯科医の受診や往診、訪問診療、訪問看護等を利用している。又、地元の床屋さんやパン屋さんに来ていただき自分で選び買い物をする楽しみを持っていただいたり地域の方にも慰問に来ていただき楽しみを持っていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診している。基本的には家族同行の受診となっているが、身体状況や本人、家族の希望により地元の診療所の訪問診療や訪問看護も利用したり、専門医の受診もしている。又受診の際には情報提供書を提出している。場合によってはスタッフも同行しスムーズな受診が出来る様努めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者に変化があった時には、看護師に連絡をし、的確な指示を受けることが出来ている。又、月一回の訪問診療をしていただくことで通院困難な利用者も、定期的な受診ができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来る限り早期の受診により入院することのないよう努めているが、入院になった場合には、データベースや、報告書の提出をしている。又、利用者の状況変化時には病院に報告し情報共有出来る様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応及び看取りに関する指針を持ち、重度化、終末期については利用時に事業所の出来る事を説明し、本人や家族の希望や意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、早い段階から本人の状況や事業所が支援出来る限界を家族に丁寧に説明しながら方針を職員間で共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全職員が救命救急講習を受講している。急変時の対応マニュアルを用意し、いつでも目を通せる様にしている。又、毎月の勉強会でも応急手当の仕方等も取り上げる事で実践力を身に付けられるよう心掛けている。又施設内にAEDの設置もしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は日中、夜間を想定し年2回行っている。訓練時には家族様にも参加頂いている。地域の方の協力体制は万全とは言えないが少しずつでも協力して頂けるよう呼びかけている。地震や自然災害に備えて町の防災訓練に参加し防災意識を高めている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時やトイレ介助時等には本人のプライバシーに最大限配慮し、利用者の個室におじゃまするときにも必ず声掛けをするよう職員全員で心掛け対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の情報をスタッフ全員で共有し、利用者との会話や何気ない一言や表情、行動等から本人の思いを引き出したり感じ取れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	毎日利用者様と談話する時間を持ち、その中で食べたいものや、したい事を聞きながら利用者の希望に添える様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には利用者様と相談しながらその人らしさを引き出せるよう努めています。又、外出時等でいつもと雰囲気が違う服装の時には声を掛け、自信につながり、意欲的になって貰えるような声掛けに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様皆さん毎日の食事を楽しみにされているので、利用者様の食べたいものを聞いたり、新鮮な食材を使い利用者に味見等をしてもらい、可能な時には職員と一緒に食事の用意をし、楽しく食事をして頂けるよう支援している。又、食後の片付けを自分の役割とと思ってくださっている利用者様もいらっしゃるので、今後も継続して行ける様努めます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューを記入し、栄養のバランスを考慮した食事を提供している。一日の食事摂取量や水分量を毎日記録に残し、職員間で情報を共有している。又、自力での摂取が難しい利用者には、場合によっては介助にて摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る利用者には毎食後歯磨きや、うがいの声掛けをし、介助が必要な利用者には歯磨きと口の中の汚れが残っていないかの確認をしている。又、就寝前には毎日必ず義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄のリズムに合わせ声掛けをし、トイレへ誘導している。又、自立に向けてズボン等の上げ下ろしの声掛けや見守り等を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食時には必ずヨーグルトを摂ってもらい無理のない排便ができるようにしている。又、水分摂取の声掛けやホール内での歩行運動を行って頂いている。それでも排便が難しい方については医師に相談し薬の処方をしてもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴の時間帯は決まってはいるが、利用者個々のペースや希望に合わせて時間をずらしたりしている。利用者の状況によってはスタッフ二人体制での介助をし、安全に御本人にとって負担がかからないよう行っている。基本的に入浴の曜日は決まっていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に居室があることで日中でも休みたい時には自由に休める環境です。又、夜間についても入眠前にスタッフとゆっくり談話をすることで気持ちが落ち着き良眠される方等、利用者個々のペースで生活して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方内容をファイルしており、いつでも確認出来るようにし、薬の変更があった場合には個人記録に記入、申し送りして全職員が把握出来る様にしている。又、薬をセットする際には間違えないよう複数名で確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の出来る事、食器拭きや洗濯たみ、ゴミ捨て等を職員と一緒にやり作業前後には必ず利用者をお願いします。ありがとうございます。とお礼をする事で、やりがいを感じる事が出来る様支援している。又、日中は作業だけではなく一緒にカラオケをし、楽しんで頂けるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調に合わせて一緒に散歩をしたり、希望があれば一緒に買い物に出かけている。又、家族様からの外出や外泊の希望があれば自由に行ってもらっている。ただ、季節的に冬場は雪が多く風も強い為外出の機会があまりなくなってしまう。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方も、事業所が預り管理している方も、欲しいものがあれば自分で選び買物出来る様している。又、天気の悪い時等は職員が代わりに買ってくるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をかける時にはゆっくりと話が出来るように自室にてして頂いている。手紙や荷物が来た時には本人に手渡し、これまでの関係が断ち切られる事がない様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールには季節ごとの行事に合った飾り付けをし季節感を味わえる様にしている。又、採光の調整やテレビの音量等にも配慮し、スタッフが作る雑音には十分に気を付け利用者が快適に居心地良く過ごして頂ける環境づくりを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファーや食卓テーブルで、気の合った利用者同士と一緒にテレビを見たり、談話をしたり、カラオケをしたりと思い思いに過ごされているが、共用空間には独りになれるスペースがない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には御本人の馴染みのものを使用して頂くよう声掛けをしています。又、身体状況に合わせた物の配置を本人、御家族と相談しています。生活する中で不都合が生じていないか?等に心掛け、安全に心地よく過ごして頂けるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食卓テーブルに利用者の名前シールを張り出し自分の場所が分かるようにしている。トイレにも大きく張り出す事で分かりやすくしている。又、トイレ内の流すボタンも分かりやすく説明を書く事で自分で認識出来る様にしている。入浴時には浴室のドアに使用中の札を掛けることで分かりやすくしています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 羅臼しおさい

作成日: 平成 28年 11月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	12	介護員不足の為、利用者様が重度化した場合の対応が困難。	介護員が十分に満たされ、どの様な場合でも十分な対応が出来る体制を整えたい。	求人等、法人を挙げての取り組みをする。 又、現在在籍している職員が長く働けるよう業務の中でやりがいを個々に見つけられるよう努める。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。